MAINICHI
毎日新聞
10月28日

# 乳がん撲滅を祈願

## 〝おっぱい絵馬〟奉納

## 患者ら高野山に集う

乳房型を奉納し、読経に合わせて乳がんの完治を祈る参加者たち＝九度山町の慈尊院で

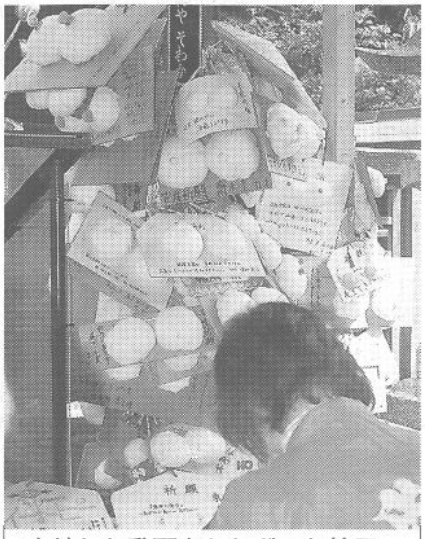
全国の乳がん患者たちが霊場高野山（高野町）に集う「生命の祈り～乳がんの集いin高野山」（乳がんいのちプロジェクト実行委員会主催、毎日新聞和歌山支局など後援）が27日から始まった。乳がん患者の心のケアをテーマに患者や医療関係者ら210人が参加。28日まで開き、乳がん撲滅を祈願するとともに生きる喜びやすばらしさを再確認する。

初日は高野山参詣道の「町石道」の登山口となる九度山町の慈尊院に集合。有吉佐和子の小説「紀ノ川」にも登場するなど乳房型を納める安産、授乳の寺として有名で、患者らが手作りの「おっぱい絵馬」など13枚を奉納した。「今生きてる」「胸は小さくなりましたが、ハートは大きく」など切実な思いが書かれ、安念清邦住職の読経に合わせて乳がんの平癒などを祈った。

この後、約50人が高野町矢立から大門まで6・4キロの町石道を歩いて登ったほか、高野山・奥の院では乳がん検診による早期発見と早期治療を啓発するピンクリボンウオークがあり、背中に「生命」の文字の入ったピンク色のウインドブレーカーを着て中の橋から弘法大師御廟まで約1キロを歩いた。手術から無事に5年を過ごせたことに感謝の思いで参加したという田辺市の大澤喜美子さん(47)は「患者同士が同じ気持ちを共有でき、みんなに救われた。参加できなかった人の分も（病気の完治を）祈ります」と話していた。

28日は写経などで自分と向き合う。乳がん患者会「あけぼの会」のワット隆子会長らの講演に続き、ダウン症の書道家、金澤翔子さんが席上揮毫する。「決して壊れることのない強い意志で乳がんに立ち向かえ」との思いを込めて「金剛不壊」と書く。

【上鶴弘志】



奉納した乳房をかたどった絵馬の前で、乳がんの撲滅や平癒を祈る参加者＝九度山町慈尊院

朝日新聞
2012年（平成24年）
10月28日
日曜日

# 乳がん撲滅・平癒祈る

## 九度山・高野 患者ら200人参加

乳がん患者の心のケアをテーマにしたイベント「生命の祈り」（朝日新聞和歌山総局など後援）が27日、九度山町と高野町で始まった。乳がん患者が寺で乳がん撲滅を祈願するなどした。

乳がん治療を専門に行う紀和ブレスト（乳腺）センター（橋本市）を持つ医療法人南労会などで作る「乳がんいのちのプロジェクト実行委員会」が主催。全国の乳がん患者や医療関係者ら約200人が参加した。

参加者は、弘法大師の母をまつり、昔から女性たちが良縁や安産を祈願してきた九度山町の慈尊院を参拝。乳房をかたどった絵馬を奉納し、乳がんの撲滅や平癒を祈った。

埼玉県熊谷市の乳がん患者の団体「くまがやピンクリボンの会」で代表を務める栗原和江さん(52)は「乳がん患者みんながいつも元気でいられるように、心をこめてお祈りしました」と話した。

28日も高野町で催しがある。午前10時から高野山大学で、乳がん患者の就労支援に取り組むNPO法人「HOPEプロジェクト」の理事長桜井なおみさん、乳がん患者会「あけぼの会」の会長ワット隆子さんらの、乳がんや生命をテーマにした講演会がある。当日の一般参加も可能だという。

（山野拓郎）